

業績のハイライト

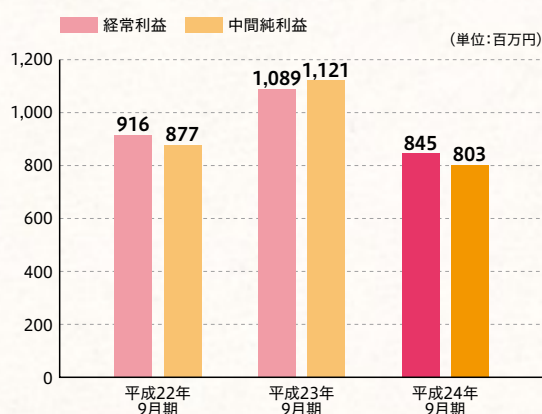
損益の状況(連結)

当中間連結会計期間の損益につきましては、連結経常収益は、貸出金利回りの低下による貸出金利息の減少等があったものの、市場環境を考慮しポートフォリオの見直しを実施したことから、前年同期比5億15百万円増加の132億33百万円となりました。

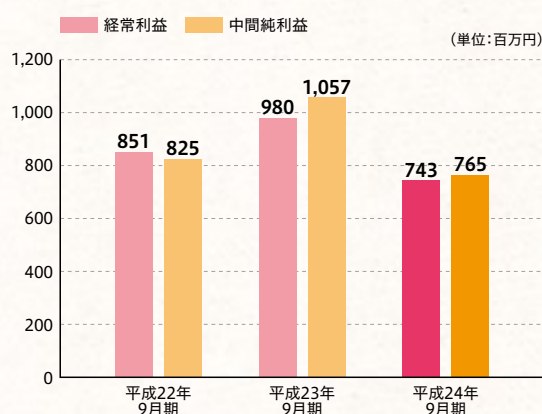
一方、連結経常費用は、不良債権費用の増加により、前年同期比7億59百万円増加の123億88百万円となりました。その結果、連結経常利益は、前年同期比2億44百万円減少の8億45百万円となりました。

また、連結中間純利益は、前年同期比3億18百万円減少の8億3百万円となりました。

経常利益・中間純利益の状況(連結)

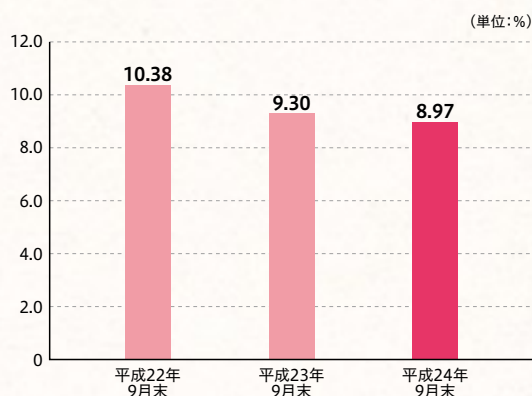


経常利益・中間純利益の状況(単体)



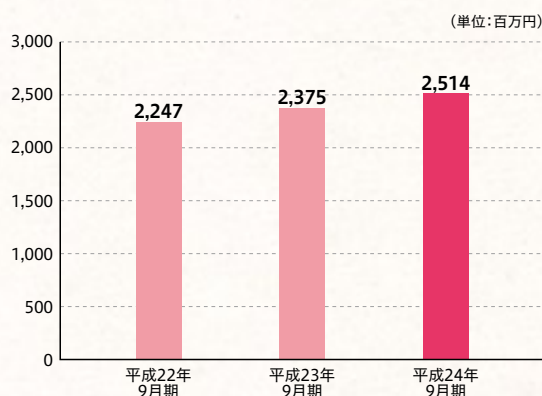
自己資本比率(国内基準)の状況(単体)

単体自己資本比率(国内基準)は、中間純利益による自己資本の積み上げを図ったものの、リスクアセットが増加したこと等から、前年同期比0.33%低下の8.97%となりました。



コア業務純益の状況(単体)

銀行の本業部分の収益を表すコア業務純益は、前年同期比1億39百万円増加の25億14百万円となりました。

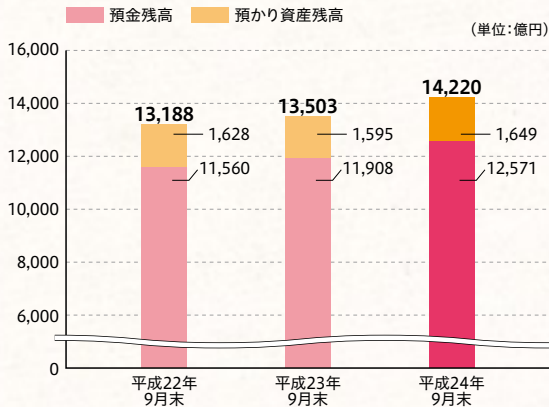


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。

預金・預かり資産の状況

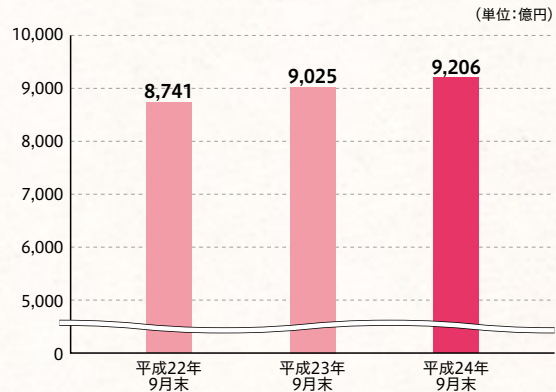
預金残高は、「山形応援シリーズ」やインターネット支店専用定期預金等を中心とした企画定期預金の充実で前年同期比662億円増加の1兆2,571億円となりました。



※預金には譲渡性預金を含みません。

貸出金の状況

貸出金残高は、「本業支援・最適提案」の取り組みを徹底したことから、前年同期比180億円増加の9,206億円となりました。

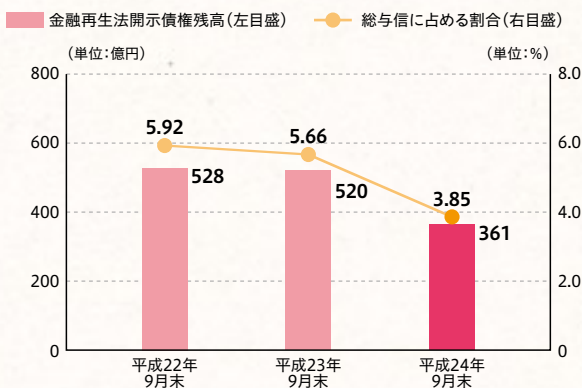


金融再生法開示債権

平成24年9月末の金融再生法に基づく開示債権は、前年同期比158億80百万円減少し、361億33百万円、開示債権比率は1.81ポイント低下の3.85%となりました。

今後も引き続き、お取引企業に対する財務内容改善等ノウハウの提供に係る経営支援、経営指導をこれまで以上に強化し、資産の健全化に努めてまいります。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
 ※単体自己資本比率(国内基準)は銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。
 ※決算の詳細につきましては、きらやか銀行ホームページ (<http://www.kirayaka.co.jp/>) をご覧ください。

当行は、平成23年2月、取引先企業再生支援のためのコンサルティング機能の発揮及び強化を目指し、完全子会社となるきらやかタウンアラウンド・パートナーズ株式会社を設立、平成24年5月、当行が所管する貸出債権125億59百万円を会社分割により承継いたしました。平成24年9月末現在における同社との連結開示債権残高は475億円で開示債権比率は5.01%となります。

なお、同社は、平成24年3月、日本政策投資銀行と資本及び業務提携に関する協定書を締結し、企業再生支援機能を強化するとともに人材の育成を図ることによって地域経済の活性化を目指しております。

■ **経常利益** 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ **中間純利益** 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。